

推しユニでピース&スマイル!

安浦から、推しのチームの勝利と、戦争のない平和な世界を願って、笑顔の花を咲かせよう

8月6日(水)と9日(土)に、安浦まちづくりセンターロビーにおいて、住民参加イベント「推しユニでピース&スマイル!」を開催しました。このイベントは、カープやサンフレッチェなど、イチ推しチームのユニフォームなどを着用して安浦まちづくりセンターに集合し、「ピース&スマイル」を合い言葉に、来館者の笑顔撮影し、印刷した写真に平和を願うメッセージを添えてロビーに掲示し、平和を安浦から発信しようという試みです。戦後復興を目指す広島県民にとって、広島東洋カープの活躍が大きな励みになったことでもわかるように、多くのプロスポーツチームが地元で活躍し、それを応援することができるのも、ひとえに平和な日常を送ることができているからと、平和のありがたさを改めて実感しました。2日合わせて約90名の参加があり、お土産に南薫造作品の絵はがきをプレゼント。ご参加いただいた方、お手伝いいただいた方、ありがとうございました。



8月6・9日で参加者は約90名



スポーツを通して、平和な世界を!!



TANTO

No.64

発行
令和7年9月10日

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261(年4回発行)

亀山八幡宮 亀山神社祭りを盛り上げよう!!

10月11日・12日

亀山八幡神社は多くの伝承がありますが安浦町史によれば、小用浦で漁師が光るご神体を引き上げ、阿戸村(安登)に社を建て、八幡宮腰掛岩と呼び記っていました。その御神体を内海村の亀山八幡神社に奉遷。内海浦の氏神として祀り、祭りでは行列・流鍋馬など神事を盛大に行ってきました。幟祭り、流鍋馬(やぶさめ)など山本譲はいきいきと描いています。

近年はその規模も縮小していましたが、一昨年から若者が地域を盛り上げようと一念発起!中学生や小学生たちにも参加を呼びかけました。笛や太鼓で御神輿が町を練り歩き、子どもたちも鬼と掛け合い「楽しかった〜!」と大満足でした。前夜祭は神楽の奉納、出演者が餅まきやくじ引きで盛り上がりしました。今年もやります!!皆さんもぜひ参加してください。一緒に祭りを盛り上げていきましょう。

10月11日(土)

前夜祭(夜ごろ)
18:00~ 神楽
餅まき

10月12日(日)

本祭り
12:00~ 行列



10月11日(土) 18時から開催



新スポット紹介



心もお腹も ほんと満たされる「おうちカフェ 和音」

昨年、安浦町内海北に新しく【おうちカフェ 和音(わおん)】がオープンしました!場所は、県道34号線矢野安浦線沿い、ナフコ安浦店から黒瀬方面へ車で2分くらいのところ。和太鼓グループ和☆Rockの拠点「和☆Rockベース」の一角にあります。店内は木のぬくもりに包まれた、ほんと落ち着いた空間。まるで親戚の家に遊びに来たような、あたたかい雰囲気が広がっています。

メニューは、日替わりの【店長の気まぐれランチ】。日替わりで4種類ほど用意されており、好きなものを選べるのも嬉しいポイントです。人気No.1は焼きそば!鉄板で焼かれる本格焼きそばをお楽しみいただけます!名物のハンバーガーには、「和☆Rock」のマスコットキャラクター「わろっくん」の焼印入り!見た目もキュートでボリュームも満点です!また、スイーツも充実しており、特に人気なのは「カヌレ」。外はカリッと、中はもっちり。豆にこだわったコーヒーやカフェラテと一緒に楽しむのがおすすめです。

カフェを営む荒井香織さんは、「『ただいま〜、今日のご飯なに〜?』と、そんな声が聞こえてきそうな場所にしたい。母ちゃんのご飯を食べに来てくださいね!」と話してくれました。

ランチメニューは日替わりなので、気になる方はInstagramや店頭でチェックを。電話での予約やメニュー相談も可能とのこと。気軽にお問い合わせください!

営業日 木曜日・金曜日・土曜日
営業時間 12:00~17:00 (L.O.16:00)
電話番号 0823-69-7756
住所 呉市安浦町内海北4-22-3



大人気!!
米粉カヌレ

亀山八幡神社を描いた 山本譲の絵



✿ 阿戸(安登)村より内海村に奉遷 ✿



✿ 幟祭り ✿



✿ 前夜祭 ✿



✿ やぶさめ ✿



✿ 行列 ✿

やすうら 記憶遺産 第36話 地域の原風景・運動会

— 連載「やすうら記憶遺産」とは？ —

安浦町の風物を描き残した画家・山本譲（1904-1994）の400枚にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取組みです。

まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016（平成28）年No.28／9月号から連載を始め、今回で36回目のお話となります。

大正時代の安浦町で行われた運動会の様子を描いたこの絵は、地域の暮らしの中に根付いていった学校行事の一場面を生き生きと伝えています。海外から導入された運動会は、明治期に日本へ広まり、大正時代には全国の小学校で恒例の行事として定着しました。安浦のような小さな町でも、子どもたちが白い体操着で整列し、万国旗が校庭を彩る光景は、地域の記憶に深く刻まれています。この絵からは、地域が一体となり子どもたちの成長を喜び合う温かさが感じられます。そして、この伝統は今に続き、私たちが知る「運動会」の原風景の一つともいえるでしょう。ただし今日では、気候変動の影響により運動会の開催時期や内容が見直されつつあり、時代とともにその姿も変化を迎えています。



やすうら再発見 散策のすすめ ◆ 弘法大師堂（安登） ～ご縁がありこの地に来られた大師像～

安登向野原地区の小高い丘の上に、弘法大師の石像が安置されています。

古老の話によると、源平合戦が終わってしばらくしたある日に、弘法大師の石像を背負い浦辺街道を行く人がいました。阿戸村中之原（現在の安登市迫附近）にさしかかった時に何故か急に重くなり、その重さに耐えきれなくなりその場に置き去りにしてしまいました。その後は、残された石像をお参りする人が多くなったので、村の人々は、話し合いお堂を建立、石像を安置したところ、参拝者が絶えず、縁日には相撲等の奉納もあり、お店もたくさん出て「市」をなすようになりました。現在この地は、林になっていて当時の賑わいを想い浮かべることはできませんが、市迫・御堂田（みどうだ）の地名として残っています。

大正の初め台風のためお堂が倒壊し、跡条観音堂に合祀されましたが、大正15年4月、向野原と跡条の講中が相談をして中山山頂にお堂を建て移転安置しました。昭和51年仁方鉄工の建設により、現在地に安置されています。

現在は向野原自治会がお世話をされています。



最初にお堂があったところ



現在の弘法大師堂

安浦町を“異のハワイ”に！ SUPで広がるまちの未来

「何もない」と思っていたこの町には、実は“何でもできる自然”がありました。SUP（スタンドアップパドルボード）との出会いをきっかけに、安浦の穏やかな海で楽しめるSUPフィッシングやSUPヨガ・SUPピラティスなど、多彩な体験を提供するアウトドアショップを立ち上げました。

町外から訪れる人も増え、SNSを通じて全国から注目され、今では年間のべ5,000人が訪れるSUPスクールへと成長。安浦の大会では世界的に有名な選手も出場、子どもからシニアまで楽しめる“ハワイのような町づくり”が少しずつ形になってきました。

目指すのは、子どもたちが誇れる安浦。自然の魅力を活かし、未来に希望を届ける。そんな夢をSUPから叶えていきます。



Instagram



韓国映画『Ashes of Love (仮題)』チョ・ソンギュ監督、広島で撮影！

安浦からもエキストラ参加！

広島フィルム・コミッションの誘致により、韓国映画『Ashes of Love (仮題)』の撮影が7月に県内各地で行われました。

本作を手がけるのは、映画プロデューサーとしてホン・サンス監督ら韓国の巨匠作品に携わり、日本映画の海外展開にも貢献してきたチョ・ソンギュ監督です。近年は、自ら脚本・監督を務めるインディペンデント映画を精力的に発表しており、その繊細な語り口と人間心理を描く手腕には定評があります。

『Ashes of Love (仮題)』は、フランスの名匠アラン・レネ監督による日仏合作映画『ヒロシマ・モナムール』（1959）へのオマージュとして構想された作品です。ヒロシマを舞台に、記憶と喪失をめぐる男女の悲しい愛の物語が紡がれます。

撮影はJR風早駅をはじめ県内複数の場所で行われ、地域住民もエキストラとして参加しました。安浦町からは住田さんが出演し、主演のミラムさん（韓国の新鋭俳優）との共演シーンが撮影されました。

完成は2025年秋ごろを予定しており、現在は広島国際映画祭での上映を視野に入れた準備も進められています（正式な出品は今後の調整次第）。国内外の映画祭への展開を目指す一作として、注目を集めそうです。

参考情報（これまでに安浦町内で撮影された作品）

グリーンピア安浦：『MAKOTO』（監督：君塚良一／2005年）
安登駅：『風の電話』（監督：諏訪敦彦／2020年）
安登駅ほか：『シケモクとクズと花火と』（監督：山岸謙太郎／2025年）



エキストラで出演安浦町の住田さん(手前)と、主役のミラムさん(奥)